

文献リスト 100 (★30)

2004年7月23日現在

I. 国際政治に関して

1. ★最上敏樹『人道的介入 — 正義の武力行使はあるか』岩波新書(新赤 752), 2001.
2. 中西寛『国際政治とは何か — 地球社会における人間と秩序』中公新書(1686), 2003.
3. 山田満『「平和構築」とは何か — 紛争地域の再生のために』平凡社新書(178), 2003.
4. 細谷雄一, 矢澤達宏編『国際学入門』創文社, 2004.
5. ★ジョゼフ・S. ナイ・ジュニア, 田中明彦, 村田晃嗣訳『国際紛争 — 理論と歴史』(原書第4版), 有斐閣, 2003.
6. ★篠田英朗『平和構築と法の支配 — 国際平和活動の理論的・機能的分析』創文社, 2003.
7. ★ヘンリー・A. キッシンジャー, 岡崎久彦監訳『外交』(上・下), 日本経済新聞社, 1996.
8. 土佐弘之『安全保障という逆説』青土社, 2003.
9. ★ヘドリー・ブル, 臼杵英一訳『国際社会論 — アナーキカル・ソサイエティ』岩波書店, 2000.

II. アメリカについて — 帝国論を含む

10. アルンダティ・ロイ著, 本橋哲也訳『帝国を壊すために — 戦争と正義をめぐるエッセイ』岩波新書(新赤 852), 2003.
11. ロバート・ケーガン, 山崎洋一訳『ネオコンの論理 — アメリカ新保守主義の世界戦略』光文社, 2003.
12. マイケル・イグナティエフ, 中山俊宏訳『軽い帝国 — ボスニア、コソボ、アフガニスタンにおける国家建設』風行社, 2003.
13. 松岡完『ヴェトナム症候群 — 超大国を苛む「勝利」への強迫観念』中公新書(1705), 2003.
14. ★スティーヴン・ハウ著, 見市雅俊訳・解説『<1冊でわかる>帝国』岩波書店, 2003.
15. ★藤原帰一『デモクラシーの帝国 — アメリカ・戦争・現代世界』岩波新書(新赤 802), 2002.
16. 園田義明『最新・アメリカの政治地図 — 地政学と人脈で読む国際関係』講談社現代新書(1714), 2004.
17. ★ボブ・ウッドワード, 伏見威蕃訳『攻撃計画 — ブッシュのイラク戦争』日本経済新聞社, 2004.
18. ボブ・ウッドワード, 伏見威蕃訳『ブッシュの戦争』日本経済新聞社, 2003.
19. ジョン・E. ボドナー, 野村達朗他訳『鎮魂と祝祭のアメリカ — 歴史の記憶と愛国主義』青木書店, 1997.
20. ★古矢旬『アメリカニズム — 「普遍国家」のナショナリズム』東京大学出版会, 2002.

III. 戦争、テロリズムについて

21. ★中村好寿『軍事革命 (RMA) — <情報>が戦争を変える』中公新書(1601), 2001.

22. 加藤朗『現代戦争論 — ポストモダンの紛争L I C』中公新書(1143), 1993, 2001.
23. 江畑謙介『日本の軍事システム — 自衛隊装備の問題点』講談社現代新書(1543), 2001.
24. 小池政行『戦争と有事法制』講談社現代新書(1699), 2004.
25. 植村秀樹『自衛隊は誰のものか』講談社現代新書(1584), 2002.
26. ★加藤尚武『戦争倫理学』ちくま新書(382), 2003.
27. ★マイケル・イグナティエフ著, 金田耕一, 添谷育志, 高橋和, 中山俊宏訳『ヴァーチャル・ウォー — 戦争とヒューマニズムの間』風行社, 2003.
28. チャールズ・タウンゼント著, 宮坂直史訳・解説『<1冊で分かる>テロリズム』岩波書店, 2003.
29. ジェイムズ・アダムズ, 伊佐木圭訳『21世紀の戦争 — コンピュータが変える戦場と兵器』日本経済新聞社, 2004.

IV. 戦争とメディア

30. ★門奈直樹『現代の戦争報道』岩波新書(新赤 881), 2004.
31. 武田徹『戦争報道』ちくま新書(387), 2003.
32. ノーム・チョムスキー著, 鈴木主税訳『メディア・コントロール — 正義なき民主主義と国際社会』集英社新書(190), 2003.
33. ★E. W. サイド, 中野真紀子他訳『戦争とプロパガンダ』(計 4 冊), みすず書房, 2002-2003.
34. ジョン・ストーバー, シェルドン・ランプトン著, 神保哲生訳『粉飾戦争 — ブッシュ政権と幻の大量破壊兵器』インフォバーン, 2004.

V. イラク、アフガニスタンについて

35. ★酒井啓子『イラクとアメリカ』岩波新書(新赤 796), 2002.
36. 酒井啓子『イラク 戦争と占領』岩波新書(新赤 871), 2004.
37. 阿部重夫『イラク建国 — 「不可能な国家」の原点』中公新書(1744), 2004.
38. 川上洋一『クルド人 — もうひとつの中東問題』集英社新書(149), 2002.
39. 桜井啓子『現代イラン — 神の国の変貌』岩波新書(新赤 742), 2001.
40. 桜井啓子『日本のムスリム社会』ちくま新書(420), 2003.
41. 渡辺光一『アフガニスタン — 戦乱の現代史』岩波新書(新赤 828), 2003.
42. 川端清隆『アフガニスタン — 国連和平活動と地域紛争』みすず書房, 2002.
43. 大塚和夫『イスラーム主義とは何か』岩波新書(新赤 885), 2004.
44. 岡倉徹志『サウジアラビア現代史』文春新書(107), 2000.
45. 池内恵『現代アラブの社会思想 — 終末論とイスラーム主義』講談社現代新書(1588), 2002.

VI. イスラエルとパレスチナについて

46. 臼杵陽『世界化するパレスチナ — イスラエル紛争』(新世界事情), 岩波書店, 2004.
47. ★横田勇人『パレスチナ紛争史』集英社新書(244), 2004.
48. 芝生瑞和『パレスチナ』文春新書(370), 2004.
49. 宮田律『中東 — 迷走の百年史』新潮新書(71), 2004.
50. 広河隆一『パレスチナ 新版』岩波新書(新赤 784), 2002.

51. 森戸幸次『中東百年紛争 — パレスチナと宗教ナショナリズム』平凡社新書(118), 2001.
52. 立山良司『揺れるユダヤ人国家 — ポスト・シオニズム』文春新書(87), 2000.
53. ウォルター・ラカー, 高坂誠訳『ユダヤ人問題とシオニズムの歴史』(新版), 第三書館, 1994.
54. サンダー・L. ギルマン著, 管啓次郎訳『ユダヤ人の身体』青土社, 1997.

VII. ユーゴ紛争に関して

55. 坂口尚『石の花』講談社漫画文庫, 全 5 巻, 1996.
56. 大津留厚『ハプスブルクの実験 — 多文化共存を目指して』中公新書(1223), 1995.
57. 柴宜弘『ユーゴスラヴィア現代史』岩波新書(新赤 445), 1996.
58. ★高木徹『ドキュメント戦争広告代理店 — 情報操作とボスニア紛争』講談社, 2002.
59. 千田善『ユーゴ紛争 — 他民族・モザイク国家の悲劇』講談社学術新書(1168), 1993.
60. ★千田善『ユーゴ紛争はなぜ長期化したか — 悲劇を大きくさせた欧米諸国の責任』勁草書房, 1999.
61. 千田善『なぜ戦争は終わらないか — ユーゴ問題で民族・紛争・国際政治を考える』みすず書房, 2002.
62. ★ミーシャ・グレニー著, 井上健, 大坪孝子訳, 千田善解説『ユーゴスラヴィアの崩壊』白水社, 1994.

VIII. ヨーロッパについて — その視点とアイデンティティー

63. ツヴェタン・トドロフ, 大谷尚文訳『イラク戦争と明日の世界』法政大学出版局, 2004.
64. 軍司泰史『シラクのフランス』岩波新書(新赤 853), 2003.
65. ★ジョゼップ・フォンターナ著, 立石博高, 花方寿行訳『鏡のなかのヨーロッパ — 歪められた過去』平凡社, 2000.
66. 近藤孝弘『国際歴史教科書対話 — ヨーロッパにおける「過去」の再編』中公新書(1438), 1998.
67. 羽場久泥子『拡大ヨーロッパの挑戦 — アメリカに並ぶ多元的パワーとなるか』中公新書(1751), 2004.
68. ★ジョン・H. アーノルド, 新広記訳, 福井憲彦解説『< 1冊でわかる > 歴史』岩波書店, 2003.
69. ★エリック・ホブズボーム, 河合秀和訳『極端な時代 — 20世紀の歴史』(上・下), 三省堂, 1996.
70. J. ル・リデー, 田口晃, 板橋拓己訳『中欧論 — 帝国からEUへ』(文庫クセジュ), 白水社, 2004年7月末刊行予定.

IX. 認識と記憶、言語 — 哲学的議論に限定せずに

71. ★藤原帰一『戦争を記憶する — 広島・ホロコーストと現在』講談社現代新書(1540), 2001.
72. 岡真理『記憶／物語』(思考のフロンティア), 岩波書店, 2000.
73. ヨースタイン・ゴルデル, 池田香代子訳『ソフィーの世界 — 哲学者からの不思議な手紙』(上・下), NHK出版, 1997.
74. 茂木健一郎『意識とはなにか — 〈私〉を生成する脳』ちくま新書(434), 2003.

75. 酒井邦嘉『言語の脳科学 — 脳はどのようにことばを生み出すか』中公新書(1647), 2002.

76. ★ピーター・L. バーガー, トーマス・ルックマン著, 山口節郎訳『日常世界の構成』新曜社, 1977.

X. 日本人であるということ

77. 井上ひさし『吉里吉里人』(3巻組), 新潮文庫, 1985. [小説]

78. 橋川文三『ナショナリズム』紀伊国屋書店, 1994.

79. ★坂野潤治『昭和史の決定的瞬間』ちくま新書(457), 2004.

80. ★多木浩二『天皇の肖像』岩波現代文庫, 2002.

81. ★小熊英二『単一民族神話の起源 — <日本人>の自画像の系譜』新曜社, 1995.

82. 小熊英二『<民主>と<愛国> — 戦後日本のナショナリズムと公共性』新曜社, 2002.

83. 小熊英二, 上野陽子『<癒し>のナショナリズム — 草の根保守運動の実証研究』慶應義塾大学出版会, 2003.

84. ★イ・ヨンスク(李 妍淑)『「国語」という思想 — 近代日本の言語認識』岩波書店, 1996.

85. 牧原憲夫『客分と国民のあいだ — 近代民衆の政治意識』(ニューヒストリー 近代日本 1), 吉川弘文館, 1998.

XI. ナショナリズム論

86. 姜尚中, 森巢博『ナショナリズムの克服』集英社新書(167), 2002.

87. マイケル・イグナティエフ著, 幸田敦子訳『民族はなぜ殺し合うのか — 新ナショナリズム 6つの旅』河出書房新社, 1996.

88. 浅羽通明『ナショナリズム — 名著でたどる日本思想入門』ちくま新書(473), 2004.

89. 姜尚中『ナショナリズム』(思考のフロンティア), 岩波書店, 2001.

90. アーネスト・ゲルナー著, 加藤節監訳『民族とナショナリズム』岩波書店, 2000.

91. ラウル・ジラルデ著, 中谷猛, 川上勉, 長谷川一年訳『現代世界とさまざまなナショナリズム』晃洋書房, 2004.

92. アンソニー・ギデンズ著, 松尾精文, 小幡正敏訳『国民国家と暴力』而立書房, 1999.

93. アントニー・D. スミス著, 高柳先男訳『ナショナリズムの生命力』晶文社, 1998.

94. E. J. ホブズボーム著, 浜林正夫, 嶋田耕也, 庄司信訳『ナショナリズムの歴史と現在』大月書店, 2001.

95. エドワード・W. サイド著, 板垣雄三, 杉田英明監修, 今沢紀子訳『オリエンタリズム』(上・下), 平凡社ライブラリー, 1993.

96. 大澤真幸編『ナショナリズム論の名著 50』平凡社, 2002.

XII. これからの政治を考えるために

97. ★篠原一『市民の政治学 — 討議デモクラシーとは何か』岩波新書(新赤 872), 2004.

98. 長谷部恭男『憲法と平和を問いなおす』ちくま新書(465), 2004.

99. アマルティア・セン, 大石りら訳『貧困の克服』集英社新書(127), 2002.

100. ★山口二郎『戦後政治の崩壊 — デモクラシーはどこへゆくか』岩波新書(新赤 893), 2004.